

# 無線博士の三大陸漂流記

中村 康久

工学博士。NTTドコモで米国、フランス、ブラジルのオフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

## [ 第2回 ]

### マイクロソフトな人たち

シアトル近郊ベルビュー市のソフトウェア開発会社 UIEvolution社(2004年にスクエア・エニックス社に吸収合併)のCEO中島聡氏は、知る人ぞ知る人物である。

彼はマイクロソフト在籍中の14年間に、Windows 95、Internet Explorer 3.0、4.0、WindowsのシェルとIEを合体させたWindows 98の開発で決定的な功績を挙げた(その結果独占禁止法で訴えられるという事件も後々発生するが)人物だ。その後、シアトルでベンチャーキャピタル会社 Ignition Partnersを設立、さらにソフト会社のUIEを2000年に起業した。ちなみに中島氏は、大学卒業直後のマイクロソフト入社前に、1年間ほどNTTの武蔵野通信研究所に勤務した経歴がある。私自身も、NTT入社後10年ほど横須賀通信研究所に勤務していた時期があるが、勤務地が違ったせいか残念ながらお目にかかった記憶は無い。

3年ほど前ベルビューのUIE社に彼を訪ねたことがある。緑多い静かな公園の一角の事務所は自由な雰囲気がいっぱい溢れていた。実は彼の存在を知ったきっかけは仕事ではなく、毎週土曜日の日本語補習学校の父兄会であった。実際に直接話をうかがうと彼は私のような凡才ではなく、事業センスと技術センスを兼ね備えたとんでもない天才であることにすぐに気がついた。その彼が当時日本で爆発的に普及しつつあったドコモのi-modeサービスとそのビジネスモデルを高く評価していたのを思い出す。中島氏は、無線通信の本質は人々を結びつける力そのものであり、コミュニケーションそのものであり、これこそがキラアプリである、と語っていた。まさに慧眼である。

もう一人紹介しよう。ワイヤレスサービス社のCEOであり、シアトル近郊のケータイキャリア向けシステムソフト開発会社であるスプロキットワイヤレス社や、その他複数の企業をリードするSteve Wood氏である。彼はスタンフォードの卒業生で、ビルゲイツ氏らと共にマイクロソフト創業時のコアメンバーの一人。後々ATTワイヤレス社によって買収されたマッコーセルラ社のボードメンバーも長年務めた。Wood氏は事業家としては既に十分な成功を収めた人物であるが、更に次のステップを求めて日

夜奔走している。

2年ほど前に一度彼に面会したことがある。当時彼は、米国で無線データ通信が遅々として進まないことに変なフラストレーションを感じていた。マイクロソフト時代に経験した自由闊達なPCビジネスに比べ、周波数割り当てや標準化で政府の規制が強すぎることに、特にFCCが以前実施した周波数オークションは最悪だった、と述べていた。

ここに紹介した2名は、シアトル近郊で活躍する多くのマイクロソフト卒業生のごく一握りに過ぎない。こういった卒業生は、米国の西海岸やハイテク企業が多く税金の低いテキサス近辺に広く偏在し、最近は無線LANやコンピュータソフト、次世代インターネット等の事業化に躍起になっている。限られた大企業にリソースが集中する日本と違い、IT産業全体の裾野が広いのだ。それはプロ野球とMLBの違いに近い。

私自身マイクロソフト内部で働いた経験こそ無いが、打ち合わせやマイクロソフトに勤務する友人と面会するために、シアトル郊外のレッドモンド市のMS本社キャンパスに時々顔を出した。キャンパス内の社員向け食堂で友人と一緒にランチしたことがある。そこは中華料理や日本料理はいうまでもなく、インド料理やマレーシア料理のメニューも豊富にそろっており、まるで国際的な空間だった。

朝の通勤時間にMS本社キャンパスに通じるインターステートハイウェイI-520号線をドライブすると、ポルシェやBMWといった高級スポーツカーがびゅんびゅん飛ばしてキャンパスに次々に吸い込まれていく光景は圧巻である。一度キャンパス構内の道路の一時停止(STOP)標識板に、“AOL”と手書きで悪戯書きされているのを見つけたときは、ハンドルを握りながら思わず大笑いした。

マイクロソフト社の強さは、国籍や生い立ちを問わず、中島氏のような才能を世界中から引き寄せる求心力、それを受け止めることの出来る包容力と国際性にあると思う。形だけのグローバル化を追い求めることの多い日本企業にとってはまだまだ先の話のようだ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)